○33番（藤野哲司）登壇　私は東区選出の自民党新福岡の藤野哲司でございます。

　質問に入ります前に、先月末の九州北部集中豪雨や、９月９日、千葉市付近に上陸し、関東を中心に大きな被害をもたらした台風により被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

　私はことしの春に行われた統一地方選挙におきまして初当選をさせていただき、今回初めての一般質問となります。選挙のときにお約束した地域の声を市政のど真ん中に届けることを実行し、東区、ひいては福岡市政発展のために一生懸命頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

　それでは、質問に入らせていただきます。

　私は自民党新福岡を代表して、今回、東区箱崎、そして本市の発展に大きくつながる九州大学箱崎キャンパス跡地の活用について質問いたします。

　九州大学は、平成３年の決定以来進めてきた本市西区、伊都キャンパスへの統合移転事業を昨年９月に完了しました。糸島半島の豊かな自然と都市近郊にある利便性を生かし、次世代に向けた最先端の研究、教育に取り組まれ、一層飛躍していくものと期待しております。一方、跡地となり、学生、教職員が去った箱崎キャンパスでは、着々と校舎の解体が進み、いよいよ跡地利用に向けて動き出したことが実感できます。昨年７月には、周辺４校区の地域の代表の方々も入った跡地利用協議会において意見を伺いながら、九州大学箱崎キャンパス跡地グランドデザインが策定され、多様な都市機能の誘導と周辺地域との調和に配慮したまちづくりに向け、その方向性が示されたところです。箱崎の地で生まれ育った私としては、跡地まちづくりへの期待の一方で、箱崎キャンパスから学生、教職員が移転していくと、まちの活気は徐々に失われてきたように感じられ、大学のまちであった箱崎は新しい時代を迎え、次の100年に向けた分岐点に立っていると感じております。

　この九州大学箱崎キャンパス跡地は、御存じのとおり、半径５キロメートル圏内には博多駅、博多港、福岡空港という陸、海、空の玄関口があり、市の都心部である天神、博多駅地区まで地下鉄、ＪＲで10分足らずという都心近接の場所というアクセス性が高い立地であります。

　平成24年に策定された第９次福岡市基本計画では、機能を充実、転換する地区として、市街地内の貴重な大規模活用可能地として、大学の移転進捗を踏まえ、新たな都市機能導入などを検討する地区とされています。このように、交通至便の立地性に加え、都心部に近接しながら広大な面積を有する箱崎キャンパス跡地は、今後の福岡市の成長の一翼を担う拠点となり得る可能性を有しているものと思っております。常々、髙島市長も言われておりますが、都心に近接してこれだけ広い土地を一体的に整備できるチャンスはそうあるものではありません。グランドデザインにおいても、広大な敷地や交通といった強みを生かし、最先端の技術革新の導入などによる快適で質の高いライフスタイルと都市空間を創出し、未来に誇れるモデル都市、FUKUOKA Smart EASTという視点でまちづくりを推進していくことが示されています。そのため、もとより土地所有者である九州大学が主として跡地処分されていく土地ではありますが、その高いポテンシャルを十分引き出し、まちづくりを展開していく必要があるため、市としても積極的に取り組みを進めていただきたいと思います。

　先ほど、私は箱崎キャンパス跡地の高い交通利便性について申し上げましたが、跡地を取り巻くように３本の路線、ＪＲ鹿児島本線、地下鉄箱崎線、そして西鉄貝塚線が走っており、ＪＲ箱崎駅、地下鉄箱崎九大前駅、西鉄と地下鉄の共同駅である貝塚駅という３つの駅が近くに位置しておりますが、市内にはほかにこのような場所はありません。このような場所でこれだけ広大な規模のまちづくりを行うことは、そうあるものではありません。やはり跡地まちづくりを考える際、これらの駅を中心とした視点が重要ではないでしょうか。特に箱崎九大前駅と貝塚駅はキャンパス跡地と接しており、ここで新たにつくられるまちの玄関となる重要な施設ですので、駅とまちとのつながりはとても大事だと考えております。

　そこでまず、貝塚駅周辺のまちづくりについてお尋ねいたします。

　貝塚駅については、西口には狭いながらもロータリーがありますが、東口にはロータリーも満足な歩道もありません。このため、駅への送迎がしにくいだけではなく、駅への経路も安全とは言えない状況です。また、駅東口では線路を横断するための地下鉄の下をくぐる道路の歩道が狭く、自転車が通れないといった課題や、Ｔ字路となっているため離合がしにくいといった課題、ＪＲ鹿児島本線の千代の松原１号踏切と県道の交差点近くは車と歩行者や自転車との接触事故も多いといったさまざまな課題を抱えています。

　そこで、貝塚駅周辺整備においては、東口のこれらの交通課題を踏まえて対応を検討すべきだと思いますが、御所見をお伺いいたします。

　以上で１問目の質問を終わり、以降は自席にて質問いたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　貝塚駅東口につきましては、今後実施する土地区画整理事業の中で、御指摘の交通課題を解決していけるよう、駅前広場の整備や歩道の設置など、改善策を検討してまいります。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　次に、貝塚公園の前にある貝塚駅の西口についてお尋ねいたします。

　駅西口については、朝夕や雨天時には送迎車で大変な混雑となっております。このロータリーでは、自家用車もバスも公園側の歩道で車をおり、信号のない横断歩道を渡って駅に向かうようになっており、混雑時には歩行者と車の接触事故が起きるのではないかと心配しているほどです。また、自家用車が停車できるスペースが不足しているため、バスやタクシー、自家用車がふくそうしている様子がよく見受けられます。

　そこで、駅西口にあるロータリーについて、整備時期や整備経緯、その広さについてお尋ねいたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　地下鉄貝塚駅の開業に伴いまして、昭和62年に整備されております。その面積は約1,000平方メートルとなっております。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　次に、貝塚駅の利用者数とその推移はどうなっているのでしょうか、また、駅利用者が同程度の福岡市内におけるほかの駅の駅前広場の面積はどれくらいでしょうか、お尋ねいたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　貝塚駅の平成29年度の利用者数は１日当たり約１万3,400人で、過去10年間では増加の傾向にあります。また、利用者数が近いＪＲ九大学研都市駅で申しますと、駅利用者数が１日当たり約１万7,400人で、北口が約5,200平方メートル、南口が約2,400平方メートルとなっております。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　貝塚駅利用者はふえているとのことですが、まちづくりに伴い、今後ますます利用者はふえると思いますし、利用者数が同程度のほかの駅に比べ、貝塚駅の駅前広場が比較的狭いことが確認できます。交通結節機能の強化や安心、安全の観点から、総合的な検証を行い、対応していただきたいと思います。

　続いて、貝塚駅へのアクセス経路についてお尋ねいたします。

　国道３号から貝塚駅への経路は、現在、東警察署の前を通り、Ｔ字交差点を左折することとなっているため、日ごろから利用している人は使いにくいという話をお伺いいたします。また、近くに住んでいない方や日ごろ貝塚駅を使われない方にとっては、貝塚駅への経路がわかりづらいと思われます。そもそも駅は地域のランドマークとして、誰からもわかりやすい経路であることが望まれる施設だと思います。

　そこでまず、過去５年の貝塚駅周辺の人口の推移と、貝塚駅直近の東箱崎校区の人口及び高齢者数の推移についてお尋ねいたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　貝塚駅１キロメートル圏内の人口でお答えいたしますと、住民基本台帳上では、平成26年度の１万5,951人から平成30年度は１万6,360人と約３％増加いたしております。また、東箱崎校区の人口の推移につきましては、平成26年度の6,951人から平成30年度は7,033人と約１％増加しており、65歳以上の人口は平成26年度の1,230人から平成30年度の1,551人と約26％増加いたしております。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　貝塚駅周辺の人口はふえており、駅直近の東箱崎校区では、人口はほぼ横ばいであるものの、高齢化は進んでおります。今後、まちづくりに伴い、駅の利用者は一層ふえると思いますので、駅周辺だけではなく、各方面からのアクセス性を考慮してわかりやすい経路の検討は必要になってくると思います。また、これからの高齢社会において健康寿命を延ばすためには、人と会う機会を多く持つことが大切だと言われておりますので、高齢者や障がい者といった交通弱者と言われる方々にとっても、まちに出やすい環境づくりとして駅の交通結節機能の強化はぜひ検討を進めていただきたいと思います。

　次に、貝塚駅西口にある貝塚公園についてです。

　貝塚公園は私も子どものころから何度も遊んだ大変思い出深い場所ですが、この公園の特徴であるゴーカートやＳＬ、飛行機といった乗り物の展示物や大型遊具など、どれも私の幼少のころから変わっていないように思われます。

　そこでまず、貝塚公園について、開園時期や整備目的などについてお尋ねいたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　貝塚公園は昭和42年に開園しておりまして、当時、いわゆる交通戦争と言われた社会問題を背景に、子どもたちが遊びながら交通安全知識や交通道徳を学ぶことを目的として整備されております。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　最近、貝塚公園の状況を見に行ったところ、さすがに整備から50年以上が経過していることもあり、施設や展示の一部においては老朽化が進んでいると感じました。例えば、ローラースケート場、観覧席といった施設は余り使われていないように見受けられましたし、北側にはかつての店舗跡のような建物があったり、余り利用されていない区域もありました。特にゴーカートは、かつて多くの車両が使われていたかと思いますが、古くなり、整備が追いついていないのか、使われていない車両が倉庫内に置かれたままの状況を目にし、少し寂しい思いになりました。また、展示されている飛行機は老朽化のため、周りには近寄らないための柵が設けられ、立入禁止の表示がされておりました。駐車場についても、駐車区画は非常にわかりにくいし、入ってみて満車のときはＵターンも難しく、とても使いにくいといった状況です。

また、現在、公園があいている時間は朝９時から夕方５時となっておりますが、例えば、災害時には周辺の方々の避難場所となる役割なども期待されることから、常時市民に開かれた場所とすることなども検討していただきたいと思います。

　そこで、土地区画整理事業とあわせて貝塚公園を再整備することと思いますが、どのような再整備をするのでしょうか、お尋ねいたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　グランドデザインにおきまして、憩い、にぎわい、交流機能のある駅前空間を創出するため、再整備することといたしております。箱崎キャンパス跡地の北の玄関口として、開園時間も含めまして、より多くの市民が使いやすい駅前空間となるよう再整備にしっかり取り組んでまいりたいと思っております。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　貝塚公園の再整備に当たっては、九大箱崎キャンパス跡地の北の玄関口として、より多くの市民が使いやすい駅前空間となるよう取り組んでいくとのことですが、公園だけで考えるのではなく、貝塚駅西口全体での計画として捉えることも大切になってくると思います。特に貝塚駅のアクセス性の強化に配慮していただきたいと思います。参考として、近隣の箱崎公園においては、子どもたちが遊べる大型遊具のあるエリアのすぐ横に広い駐車場が整備されており、特に小さな子連れの方々に大変な人気となっております。このような事例も参考としながら、魅力的な公園になるよう十分に御検討いただきたいと思います。

また、本市では人生100年時代に向けて心身ともに健康で自分らしく暮らせるプロジェクト、福岡100を進めておりますので、ちょっとした運動ができるようなスペースを整備し、周辺住民の健康増進につなげていただきたいと思います。

　さらに、貝塚公園は交通戦争と言われていた時代に交通公園として整備された歴史を受け継ぎ、これからは次世代のモビリティーの活用も視野に入れたらどうでしょうか。８月末にはFUKUOKA Smart EASTの一環として電動キックボードの実証実験が貝塚公園で行われました。私も参加いたしましたが、多くの市民の皆様が集まっており、評判もよかったため、世界的に関心が高まっている次世代のモビリティーを市民が体感できる場にするのはいかがでしょうか。また、幅広い世代のニーズに応えられるようサービス施設が立地するなど、新しい時代に応じたさまざまな機能を御検討された上で魅力的な公園として整備していただきたいと思います。

　さて、これまで北の玄関口となる貝塚駅、貝塚公園について質問してまいりましたが、次に、地下鉄箱崎九大前駅が立地する九州大学箱崎キャンパス跡地南側のまちづくりについて質問いたします。

　九州大学箱崎キャンパス跡地南側は、もともと工学部のあったところで、早くから伊都キャンパスへの移転が進んだこともあり、現地で校舎の解体が着々と進んでいるのを確認することができますが、いよいよ跡地のまちづくりが本格化することを実感している次第でございます。また、地下鉄箱崎線の箱崎九大前駅やＪＲ鹿児島本線の箱崎駅に近く、利便性が高い土地でもあります。特に地下鉄の箱崎九大前駅は跡地の目の前に位置しており、大学があったときには多くの学生、教職員が利用しておりました。跡地が新しいまちに生まれ変わるに当たり、先ほどお尋ねした貝塚駅のみならず、箱崎九大前駅の駅前空間も重要になってくると思います。

　そこで、改めてグランドデザインにおける箱崎九大前駅の駅前空間の位置づけについてお尋ねいたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　グランドデザインにおきまして、駅と跡地等をつなぐ新たなまちの顔となり、人々が憩い、交流できる駅前にふさわしい空間づくりと利便性の向上を図ることといたしております。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　箱崎九大前駅において、駅前にふさわしい空間と利便性の向上が図られるとのことで大変期待しておりますが、現在は地下鉄をおりて地上に上がってくると目の前は駐輪場となっているため、このままではまちの顔と言える空間になるか懸念されます。跡地のまちづくりが進むと、地下鉄の利用者もかなりふえることと思われます。

　そこで、駐輪場のあり方を含め、跡地の中だけではなく、駅からの動線を意識した一体的な整備が必要と思われますが、御所見をお尋ねいたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　箱崎九大前駅周辺につきましては、跡地のまちづくりにおいて、まちの顔としてふさわしい空間となるよう安全で快適な歩行者空間を確保するとともに、さまざまな人が利用し、交流する空間の創出ができるよう広場等のオープンスペースを適切に配置してまいります。また、駐輪場を含む駅周辺につきましても、跡地のまちづくりとの連携を関係局と検討してまいります。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　次に、道路についてです。

　箱崎キャンパス跡地内に２本の道路が都市計画決定されております。市の道路ネットワークを担うもので、東西南北の市街地を結ぶ幹線道路ですが、50ヘクタールの広大なまちづくりを行うに当たって、その骨格となるものだと思います。

　そこで、都市計画道路整備の進捗状況についてお尋ねいたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　施行者でありますＵＲ都市機構が都市計画道路事業の国土交通大臣承認を平成30年に取得し、現在、測量等を進めております。今年度は引き続き測量等を進めるとともに、秋ごろからは道路用地の一部取得などが予定されているところでございます。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　道路用地の一部取得に取り組むとのことですが、都市計画道路の整備に当たっては、九州大学箱崎キャンパス以外にも用地買収が必要となり、地域住民の御理解、御協力が不可欠になってくると思います。

　そこで、用地買収に御協力いただく住民の皆様のために、代替地を確保するなど生活環境への配慮が必要だと感じますが、御所見をお尋ねいたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　用地の取得に当たりましては、地権者の新たな生活環境への移行が円滑に図られますよう、代替地の確保について九州大学等とも調整をしてまいります。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　都市計画道路の地権者の方からは、用地買収の必要性は理解されているものの、箱崎のまちに住み続けたいという思いや、これまでの生活が大きく変わるのではないかという不安などを抱えられていると伺っております。

　できる限り今のお住まいの近くに代替地を優先的に確保できるよう、箱崎キャンパス跡地周辺に九州大学が所有する職員会館などの土地を地権者の意向に合わせ、代替地として活用すべきと考えますが、御所見をお尋ねいたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　代替地につきましては、御指摘の箱崎キャンパス跡地周辺にあります九州大学の所有地であります職員会館や生協の跡地などの活用も含めまして、九州大学等と調整をしっかりと進めてまいります。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　地権者が安心して新たな生活を送ってもらえるよう最大限取り組んでいただきたいと思います。

　一方で、箱崎キャンパス跡地に隣接する道路はどうでしょうか。大学の塀沿いは歩道がなかったり、車道も一方通行の規制がかかっていたりする状況となっております。

　そこで、お尋ねいたしますが、跡地のまちづくりにあわせて道路を拡幅して歩道の整備などは行われないでしょうか、御所見をお尋ねいたします。

○副議長（楠　正信）　石橋住宅都市局長。

○住宅都市局長（石橋正信）　跡地に接する道路につきましては、今後予定しております開発行為や土地区画整理事業の中で歩道を設置するなど、安全、安心な道路空間の整備を予定いたしておるところでございます。以上でございます。

○副議長（楠　正信）　藤野哲司議員。

○33番（藤野哲司）　跡地のまちづくりにおいては、新たに箱崎のまちの魅力向上につながるものと期待しております。

　一方で、箱崎キャンパス跡地南側は箱崎の伝統的な町家を残すまち並みに接しているため、ともに住みよいまちを目指すべきだと思いますので、周辺地域との調和に配慮するとともに、周辺地域と一体的な発展ができるよう、引き続き九州大学などとともに、検討をお願いしたいと思います。

　九州大学箱崎キャンパスの設立以降、箱崎は大学のまちとして九州大学とともに発展してきた歴史があり、今回のキャンパス移転を契機として新たなまちづくりの機会を迎えていくことと大変期待しておりますが、そもそも九州大学箱崎キャンパス跡地は、当時そこで農業をされていた地元の方の御理解と御協力により土地の提供を受け、約100年前に設立されました。この九州大学が移転すると決まり、地域の活気は徐々に失われました。移転する前の平成17年当時、学生と教職員が合計で１万3,000人おり、箱崎はその恩恵を受けてきましたが、学生向けの飲食店は閉店が相次ぎ、アパートは外国人が多数入居されまして、地域との共生が課題となっております。

　そこで、最後にお尋ねいたします。

　今後、九州大学箱崎キャンパス跡地利用に当たって、これまでの歴史を踏まえ、周辺地域と一体的に発展しながら100年後の未来に誇れるまちとなるよう、福岡市のまちづくりに取り組む髙島市長の決意をお伺いしまして、質問を終わります。

○副議長（楠　正信）　髙島市長。

○市長（髙島宗一郎）　九州大学箱崎キャンパス跡地につきましては、藤野議員が言われますとおり、地域とともに歩んできた九州大学100年の歴史を継承していくことが重要と考えています。今後、少子・高齢化の進展によって大きく社会の人口の構成が変わるなど、社会のあり方が変わってくる中で、さまざまな社会課題を解決し、持続可能な社会を実現していくためには、先端技術なども積極的に活用していくことが大切であるというふうに考えています。真っさらの土地にベースの基礎インフラから、一からデザインできる今というものは、その大きなチャンスであると考えています。この機を逃すことなく、先進的なまちづくり、FUKUOKA Smart EASTの実現に向けて、地域を初め、九州大学などの関係者と連携をし、未来に誇れるまちづくりにしっかりと取り組んでまいります。以上です。